

2024 年 9 月 20 日

佐那河内村庁舎跡地等活用検討委員会の進め方

■検討の意図

○旧役場庁舎解体後の敷地整備に関する考え方

<現状認識>

- ・旧役場庁舎は解体中→跡地利用の計画はなし
- ・隣接する農業振興センター（1983 年竣工）の耐用年数（50 年、2033 年）が迫っている。
 - 近い将来、改修・改築等の検討が必要
- ・現在 100～150 人規模が集会を開催できる場所がない
 - 旧役場跡地の利活用の検討の中で、農振センターや要望されている機能整備についても併せて検討することが有益

○村内における公共施設整備に対する考え方

- ・現状以上の新たな施設は不要、という意見が多い
 - 旧役場跡地の検討では「全天候型公園」の提案にとどまる
- ・婦人会、老人会などからは総会が開催可能な 100～150 人規模の集会施設の要望
 - 村立体育館は空調なし、毎回シート敷設による土足化をする必要があるため、運用上の課題あり

■本検討会に至るこれまでの検討経緯

○佐那河内村庁舎跡地活用検討委員会（R4. 12～R5. 3）

- 「基本計画の素案作成時期を R5. 6 →RS 秋以降に変更」し、終了

○村民有志検討会（R5. 1～R5. 3）

- 農振センターを回収したうえで、旧役場跡地は「大屋根の全天候型広場とすることが妥当」とし、農振センターを合わせて施設コンセプトの検討を求める

○村職員タスクフォース（村職員 5 名、検討時期不明）

- 「全天候型 ファミリー公園の整備」「将来取り壊す農振センターの跡地に文化ホールを建設」を提案

■本検討会での検討内容

○農振センターも含めた一体的な土地利用の検討

- ・近い将来に耐用年数を迎える農振センター建物も含めたエリア一帯のコンセプトの決定
- ・農振センター敷地も含めた一体的な土地活用の妥当性の検討、および整備施設の検討

○スケジュール

- ・下記を参照

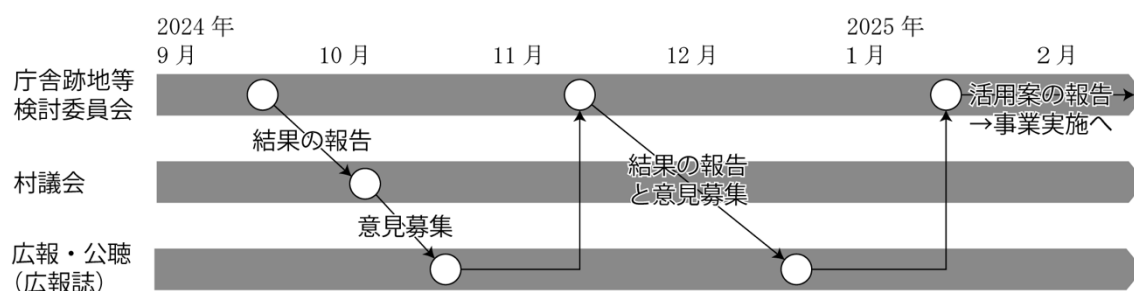


図 検討スケジュール